



砺波総合病院から

病院のホームページもご覧ください。

市立砺波総合病院 ☎32-3320

大腸がんについて

市立砺波総合病院 外科

部長 吉田 貢一

はじめに

日本人の大腸がんの患者数は、ここ20年の間で約3倍にも達しており、深刻な増加傾向を示しています。最新の統計では日本人の癌の死亡原因における大腸がんの順位は、男性で3位、女性では1位という結果でした。

検診について

大腸がんはかなり大きくなって症状が出にくいことが多く、実際に大腸がんの患者さん自身が驚かれます。症状が出にくい大腸がんを発見するきっかけとして最適なのが検診だと思います。

大腸がん検診では2日分の便を使用します。手や周囲を汚さず、簡単に便を採取するキットが付いていますので安心してください。



腹腔鏡下大腸手術の様子

この検査が陽性となった方は、精密検査として大腸内視鏡検査を行うこととなります。

大腸内視鏡検査について

「下剤をたくさん飲まされて大変だった」とか「痛くて大変だった」とかお聞きになったことがあるかもしれません。確かに下剤を1リットルくらい飲む必要があります。しかし、数年前までは2リットル飲む必要がありました。痛みについては大腸の長さや形も関係してくるので個人差はありますが、内視鏡機器の進歩や手技の進歩で以前よりは格段に楽になったのではないかと思います。検査の際は他の部分を隠す特殊なパンツをは

いていたので、恥ずかしがらず受けていただきたいと思います。

治療について

大腸がんの治療の柱となるのは手術療法です。治療に伴う痛みは以前に比べて軽くなってきています。

その代表格が内視鏡治療です。早期の大腸がんが対象ですが、お腹を切ることなく癌を切除することができます。もちろん当院でも積極的に取り組んでいる治療です。

また、お腹を切って、腸管や周囲のリンパ節も切除しなければならぬ病状の患者さんには、腹腔鏡を用いて手術を行うことができます。この手術は傷がとても小さいので傷跡が目立たず、痛みが少なく、精密で出血の少ない手術ができるというメリットがあり、当院の大腸がんの標準手術法になっています。

手術以外の治療法として化学療



腹腔鏡下大腸手術(直腸がん)の傷跡

法(抗癌剤治療)や放射線治療もあり、これらの治療を組み合わせることで治療することもあります。

最後に

検診を受けられた方の約7%で便潜血検査が陽性となり、便潜血検査に異常があった方の約4%の方に大腸がんが発見されます。つまり検診を受けられた方の約0.2%に大腸がんが見つかる計算になります。意外に少ない数字と思われるかと思いますが、大腸がんの実に1/3がこの便潜血検査で発見されています。そして、毎年繰り返し便潜血検査を受けることにより大腸がんが死亡する危険性が約70%も減らすことができると言われています。

実は、大腸がんは治りやすい癌と言われており、進行がんであっても多くの方が完治します。この治りやすい大腸がんが治らない状態まで放置されて発見されることは残念でなりません。ぜひ、検診を受けていただきたいと思います。